

今月のことば

下がるほど

人の見上げる

藤の花

(作者不明)

本願寺(西本願寺)・大谷家の家紋は、「下がり藤」です。藤の花は、私たちに大切なことを、教えてくれます。

「下がるほど 人の見上げる 藤の花」

この言葉(俳句)は、誰の言葉かは不明ですが、昔から伝えられている言葉です。藤の花は、上に向かって咲くのではなく、下に垂れて咲きます。見事に咲けば咲くほど、下がってくるのが藤の花なのです。そして、下がれば下がるほど、人は、藤の花を見上げるのです。

この言葉は、「人間は、立派になればなるほど、謙虚になつていく(下がる)。そして、そのような人を、周りの人は尊敬する(見上げる)。謙虚さを大切にしろ」ということを、表現しています。

「実るほど 頭をたれる 稲穂かな」(作者不明)

稲穂は、実れば実るほど、先が重くなり、頭をたれるようになります。この言葉も、「人間は、立派になればなるほど、謙虚になつていく(頭が下がる)」ということを表現しています。謙虚さを大切にするということは、積極性を否定することではありません。積極性ももちろん大切です。しかし、それが、傲慢になつていないかということは、常に気をつけなければなりません。

仏さまの教えを聞く中で、傲慢にならず、卑屈にならず、私が私として、いのちいっぱい生きる。そこに、本当の謙虚さというものがあるのではないかと、感じています。 合掌

龍谷大学非常勤講師

こいけひであき
小池秀章